

防災問題研究会 リケンの被災からの復興とBCP構築について

(株)リケン 営業管理部長・事業管理(BCP)室長 藤井 多加志 氏

ピストンリングで国内シェア約 50%を占めるなど、自動車部品を製造する(株)リケンは、2007年7月の新潟県中越沖地震で、柏崎工場が震度6強の強い揺れにより被災し、製品を供給ができない事態に陥った。しかし、自動車メーカーを中心とする延べ約7,900人の応援により、一週間後には生産を再開することが出来た。そこで、藤井部長より被災状況や復興過程の貴重な体験、被災後の強化内容、BCP構築についてお話戴いた。

リケンとグループ会社の被害状況

- ・ 負傷者 41 名 (うち労災 13 件)
- ・ リケンの倉庫 1 棟全壊
- ・ リケン精密の工場 1 棟が液状化で使用不可
- ・ 約 7 割の加工設備の位置ずれ、うち 1 割が転倒・傾き、ラック類転倒、測定器類使用不可
- ・ サーバー類が転倒し使用不可
- ・ 社員住宅は全壊 35 棟、半壊 85 棟、一部半壊 411 棟、直後は 100 人超が避難所等で生活
- ・ 6 日目に水道復旧

復興作業

- ・ 翌日には自動車メーカーなどの応援部隊の先遣隊が到着。3 日目には約 600 名の本隊応援を戴いた (Max800 名超)
- ・ 3 日目に電力と情報システム復旧
- ・ 4 日目に 9 割の設備の再設置完了、作動確認と精度確認開始

被災後の強化とBCP構築について

- ・ 設備を固定した場合は、強い揺れにより設備が破損する可能性がある。BCPを重視するなら固定しない方がよいと云う意見もあるが、人命を優先し固定した
- ・ 復旧時に水の確保に困ったので、地下水利用と貯水を実施
- ・ BCPは、復旧目標を1週間とし、生産バックアップ体制と製品在庫体制を構築

(文責事務局)



藤井部長



講演後に研究会員と意見交換